



切り絵 比企善彦作

うぶすな

茨木神社社報

発行所

茨木神社社務所

茨木市元町4-3

072 (622) 2346

[http://www.](http://www.ibarakijinja.or.jp/)

[ibarakijinja.or.jp/](http://www.ibarakijinja.or.jp/)

見えないものを感じる心

平成二十五年十月に伊勢の神宮では第六十二回式年遷宮が斎行されました。この年、神宮にはこれまでで最も多い千四百二十万人もの参拝者が訪れ、御神域は「お陰に感謝する心」で満たされました。

その一方で、古くから日本人がもっていた道徳心が失われてしまったと思わせる余りにも利己的な度の過ぎた事例を日々マスメディアが報じています。

その原因のひとつに以前には家庭で、地域でそして学校で教わっていた古くからの道徳心を失っているからと言えるでしょう。

大正時代の童謡詩人金子みすゞの「星とタンポポ」という詩の一節に「見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ。」という文があります。また昔の童謡に「見てござる」があります。年配の方なら誰もが口ずさんだなつかしい歌です。見えない所から誰かにいつも見られている。

私達の祖先是、目に見えないものを「心」で感じ畏敬の念を捧げ、日々の行いには神様・仏様が見ておられる。そして御先祖様に恥じない行動を心掛けたものでした。しかし今では家庭でも学校でも教えなくなってしまう。

神様・仏様・御先祖様を背中に感じなくなれば誰も見ているものではありません。誰はばかることなく、自分は自分、人は人、何をしようが自分勝手にするのは当然です。

忙しく日々の生活に追われる現代、核家族化が進み家庭に神棚や仏壇のある家が少なくなってきました。忙しい中にごそ心静かに手を合わせる場所が身近にあれば、日々の暮らしはもっと穏やかなものになるでしょう。

「見えないものもある」「見てござる」は短い言葉ですが、大事な言葉です。

奉賛会だより

奉賛会神社

参拝バスツアー



去る十一月二十六日、昨年の伊勢の神宮について、二回目となる茨木神社奉賛会主催による神社参拝バスツアーが、七十七名ご参加のもと実施されました。今回は紅葉の木々が美しい晩秋の京都、その北部に御鎮座する日本三大勅祭社（天皇のお使いである勅使が参向する社）の一つであり、「葵祭」で有名な上賀茂神社と下鴨神社に参詣しました。両神社は古くより皇城の守護神、また山城国一宮として、皇

室をはじめ広く庶民の信仰を集め、平成二十七年には、両神社とも伊勢の神宮と同じく式年遷宮を迎えます。

まず、上賀茂神社では、正式参拝の後、造替中の御本殿の檜皮葺の屋根を間近で見せていただき、参集殿では田中宮司様から由緒など御講話をいただきました。続いて下鴨神社では正式参拝の後、私達のために平安時代の女性貴族の正装である「十二単」の着装をわざわざ実演して見せていただきました。すべて着物を着けると十四キロにもなるその艶やかな衣装を、衣紋者と呼ばれる二人の女性が手慣れた作法で次々と重ねられる様子に皆感心してご覧になり、と



ても貴重な体験をさせていただきました。昼食をかつて明治の元勳山県有朋の別邸で高瀬川源流庭園でも有名な「がんこ高瀬川二条苑」

でとり、懇親を深めた後、京都の代表的な菓子である「生八つ橋」を実際に手作りする体験をいたしました。皆慣れない手付きながら、三種類の「生八つ橋」を係員の説明を聞きながら一心に手を動かす楽しい一時を過ぎました。

今回ご参加いただきました皆様には、常に団体行動にご協力

奉賛会入会のおすすめ

茨木神社奉賛会は、千二百年の伝統を持つ由緒深い私達の氏神様を立派に護持して、子孫へ伝える目的で発足いたしました。

これまで、会員の皆様方の御篤志・御協力によりまして、石門別神社・愛宕神社・皇大神宮の御造営をはじめ、御鎮座千二百年また合祀百年記念事業等に協賛してまいりました。

今後は、さらに会員の皆様の

をいただきましたことに感謝申し上げます。



相互親睦をも図りながら、所期の目的のため邁進したいと存じます。

会員の方には、新年諸祭儀や夏の大神事等々のご案内や会員のご誕生月々初めの誕生祭齋行、毎月の祭典奉行での会員の家内安全・厄除開運をご祈願申し上げております。また、毎年の神札の授与、暦等を年末に配布贈呈させていただいております。年会費は三千円です。

ご入会いただけます方は、社務所までお問い合わせください。

黒井の清水大茶会

去る十月十八日(土)・十九日(日)の両日、さわやかな秋空のもと、「黒井の清水大茶会」が開催されました。

境内に並べられた床几で野点を楽しまれた方は二日間で三千人を越し、これまで最多となる盛況ぶりでした。

この催しは平成十二年より恒例行事として茨木市観光協会主催で催されていますが、今年「大坂冬の陣」から数えて丁度



四百年を迎えます。大阪府下各所では様々な催しが行われておりますが、秀吉公がご愛飲された当社の「黒井の清水」も豊臣家ゆかりの地として注目されています。

境内では待合所にさながらコンサート会場のように赤い毛氈が敷設され、琴や雅楽の演奏も行われ一層茶会の雰囲気を出しました。

お茶席以外にも地域物産品の即売会やガラガラ抽選会など様々なイベントも行われ、両日たくさんの方々が賑わいました。

抜穂祭斎行

十月二十六日、秋季恒例の抜穂祭を斎行し、十一月二十三日に収穫した新穀をご神前にお供えして新嘗祭を斎行いたしました。当社ではこのお米を、神さまの御恵み「おかげ様」を戴いて生育することから「御蔭米」と名付け、

新嘗祭で神様にお供えした後、そのおさがりを些少ではありますが奉賛会の皆様にお頒かちしています。



当社で毎年御垣内で栽培しているこの稲は平成元年に神宮の神田で発見された新種で「イセヒカリ」と名付けられ、当初は神宮でのみ栽培されておりましたが、全国からの強い要望により主要神社や篤農家に特別に下賜されたものです。

また「抜穂祭」とはその年育った瑞々しい新穀を新嘗祭において神前にお供えするため、はじめて稲穂を刈り取る神事です。

また「抜穂」とは古代には鋭利な鎌などの農具はなく、直接手で稲穂を摘み取った折の呼び方が、現在まで受け継がれています。毎年、天皇様も春に皇居の水田で御手植えされた稲を秋には御自ら刈り取りをなされ、伊勢の神宮の新嘗祭にお供えされます。

テレビで紹介されました



去る十一月二十三日に神戸サンテレビで放送の「ウドちゃんの旅してゴメン」で茨木神社が紹介されました。

この番組は視聴者からの情報を元に、キャインのウド鈴木さんが自由気ままま行き当たりばつたりの旅をくり広げるもの。

この日は「大阪・茨木市編」ということで、阪急本通商店街のお店に行った後、茨木神社に参拝し、旅の安全を祈願されました。

この番組は、毎週日曜日午後六時半からサンテレビで放送されています。

シリーズ神道

『修祓』

神社での「祭典」には必ず初めに「修祓^{しゅばつ}」が行われます。言い換えれば「祓」は祭り・神事を行うための前提であって必須要件なのです。

それはご神前に参入るに際して罪・穢^{けがれ}を祓^{はら}って心身ともに清浄にするためです。

罪・穢の罪とは、今日の刑法に定められた罪ではなく、神様（祖先）からいただいた人間の本当のすばらしいものを包んでしまうようなもの。人間の中の

神様のお姿を包んで隠してしまふもの（包む身）と言うことです。「穢」も決して汚いものという意味ではなく、神様からいただいた力である「氣」を枯らしてしまう（氣枯）ものと言うことです。

参拝者が神前に進む前に行う「手水」も祓です。一方、祭典に奉仕する神職にあっては、その果たす役割によってはより厳格な「祓」が求められます。ちなみに、伊勢の神宮の大宮司は

一番神様の近くで奉仕するため約一ヶ月近く「参籠」といって特定の館に籠り、食事も限定され心静かに奉仕に備え、そのうえ更に「祓」を受けられます。私達の祖先は、神参りの時だけではなく日々の生活においても「穢」を遠ざけ、神様からいただいた氣を枯らすようなことのないよう心掛けてきたのです。

藤の木植樹

参道南側の藤棚の藤が年々弱つてきて、先の方が枯れてしまっていました。この度、近衛家に連なる宮川様より藤の苗を奉納いただきました。去る十月十六日に来社、宮司とともに植樹いた



秋祭 祓所での修祓のようす

いただきました。厚く御礼申し上げます。



手摺設置

正面参道の石段に、かねてよりご要望のありました手摺りを設置しました。階段中央にも設置できればと思いましたが、夏祭の神輿の



渡御に支障が出るため左右に設けることとしました。どうぞご利用ください。

就任報告

この度、山田久敬様（駅前）に平成二十六年十月より神社総代にご就任いただきました。

帰幽報告

永年総代として、神社護持のためご尽力を賜りました榎浪新三様が去る平成二十六年十月二十七日にご逝去なされました。榎浪様は、昭和五十三年にご就任以来、総代会代表・茨木神社奉賛会会長をはじめとしてひとかたならぬご貢献を賜りました。

ここに永年にわたるご功績に衷心より深謝し哀悼の意を表します。

いれからの主な行事

十二月三十一日

越年祭

一月 一日 歳旦祭 午前十時

一月九日〜十一日

十日戎祭

一月十五日 御火焚(とんど)

祈榊木奉焼祭

二月 三日 節分祭・鎮魂星祭

二月十一日 初午祭

紀元祭

四月 八日 人形奉焼祭

四月十八日

春祭(祈年祭)

奉賛会厄除安全祈願祭

六月三十日 大祓

茅の輪くぐり神事